

令和５年度エコパークあぼしモニタリング確認・評価会議記録要旨

- 1 日 時 令和6年7月23日（火）午後2時00分から午後2時43分まで
- 2 場 所 姫路市立網干環境学習センター 1階 エコパークあぼし会議室
- 3 出席者 松村千里氏、武尾正弘氏、長澤守氏
事務局：三宅農林水産環境局長、土井美化部長、清水所長、鷹家課長補佐、大河内係長
- 4 傍聴者 なし
- 5 議 題
 - (1) モニタリングに係る調査結果と評価について
 - (2) 令和6年度調査等のスケジュールについて
 - (3) その他

会議記録

発言者	内 容
事務局	排水水からは、ヒ素、ホウ素、フッ素、アンモニア類、ダイオキシン類を検出しているが、いずれも基準値を下回っている。少し気になる点としては、排水水2のアンモニア類で、各回それぞれ56mg/ℓ、27mg/ℓ、4.9mg/ℓ、22mg/ℓ、排水水3のダイオキシン類で、各回それぞれ1.3pg-TEQ/ℓ、0.24pg-TEQ/ℓ、3.3pg-TEQ/ℓ、5.1pg-TEQ/ℓと少し高い数値を測定している。 海水の調査結果は、ヒ素、セレン、ホウ素、フッ素、アンモニア類、ダイオキシン類を検出しているが、基準値を超える物質はない。 地下水位は、網干港水位より高水位を保っており、地下水のpHは6.4～7.8の範囲であった。 ガスの測定については、No.1、No.3、No.6、No.8、No.18、No.20、No.21で5%を超えるガスを測定しており、特にNo.21では依然高濃度のガスが発生している。 地盤沈下の測定は、定点測定の結果、目立った沈下は認められなかった。
意見 (水質について)	● 排水水3のダイオキシン類について、当初、処理場からの雨水の影響を考え現地確認を行った。しかし、同位体分布を見ると焼却パターンであり、焼却灰や残渣など埋まっているものが少しずつ出ている感じがある。ただ、PHに変化はなく、まだつかめないう状態である。引き続き監視をしていただきたい。 ● 排水水2のアンモニア類について、小動物の糞尿の影響も考えたが、これも堆積物からの可能性があると考えられる。引き続き監視をしていただきたい。
意見 (水位等について)	● 特段大きな変化は見受けられず、変動の範囲内と読み取れるため、引き続き経過観察をお願いしたい。
意見 (ガスについて)	● 可燃性ガスのNo.21は出続けるでしょう。万博工事での事故もあったので溜まらないように注意が必要です。 ● 普段出していない場所でもガス溜まりなどがスッと抜けたりすると出ることがある。低気圧の影響などで抜けることがある。ただ、掘ったりしないと詳しい原因はわからない。
意見 (地盤沈下について)	● ほとんど変動がなく、今後も継続的な監視により確認をお願いしたい。
意見 (R6年度調査)	● 数値的には昨年度とさほど変わらないが、ダイオキシン類、アンモニア類、可燃性ガスについては引き続き注意をもって監視するということをお願いしたい。